

2019年3月期 第1四半期 説明資料

株式会社 高松コンストラクショングループ

証券コード:1762

2018年8月8日

本資料に記載されている将来に関する記述は、本資料作成日現在で入手可能な情報にもとづいて作成したものであり、実際の実績等は今後様々な要因によって異なる可能性があります。また、当資料は投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

環境認識

プラス要因

- 国内建設投資額は**53兆円**を上回る水準を3年は持続すると見る。
- 東名阪の世帯数は高水準を持続、新築住宅着工も好調持続を予想。
- 首都圏の賃貸マンション建設は当面好調が継続すると見る。

マイナス要因

- 国内建設投資は中計終了年度の2020年以降、縮小の見通し。人口も縮小トレンド加速。
- 建設労働者の減少に伴う原価の上昇トレンド。
- 賃貸マンション需要が金利上昇・空室率UPなどで急速にしぼむリスクあり。
- 新設工事件数の減少。

高松コンストラクショングループとしての成長イメージ

1. 好調な首都圏の賃貸マンションを成長の中核とし、受注拡大・持続的成長を可能にする体制構築を目指す。
2. その反面、中長期的に市場が現状並みから縮小すると考えられる土木・官公庁関連事業は、堅実なシェアアップ・高利益率の持続を目指す。
3. 上記が実現できる経営基盤も整備。

業績(連結)の推移

1. 受注高: 対前期2.5%減。
2. 売上高: 対前期+3.1%増。7期連続増収、6期連続過去最高の第1四半期。
3. 利益: 前期の高採算建築案件の反動減により青木あすなろ単体の売上総利益が減。
両グループともに販管費が上昇したことも要因となり、対前期で営業利益は55.0%減。
同様に経常利益は54.1%減、当期利益は56.1%減。

単位: 億円

項目 (単位: 億円)	2018/3期 Q1	2019/3期 Q1	増減率(%)
受注高	693	675	△2.5%
売上高	525	541	+3.1%
売上総利益 (売上総利益率)	65 (12.5%)	63 (11.8%)	△2.7%
営業利益 (営業利益率)	19 (3.8%)	8 (1.7%)	△55.0%
経常利益 (経常利益率)	20 (3.8%)	9 (1.7%)	△54.1%
親会社株主帰属四半期純利益 (四半期純利益率)	10 (2.0%)	4 (0.9%)	△56.1%

グループ別 受注高・売上高・売上総利益（連結）

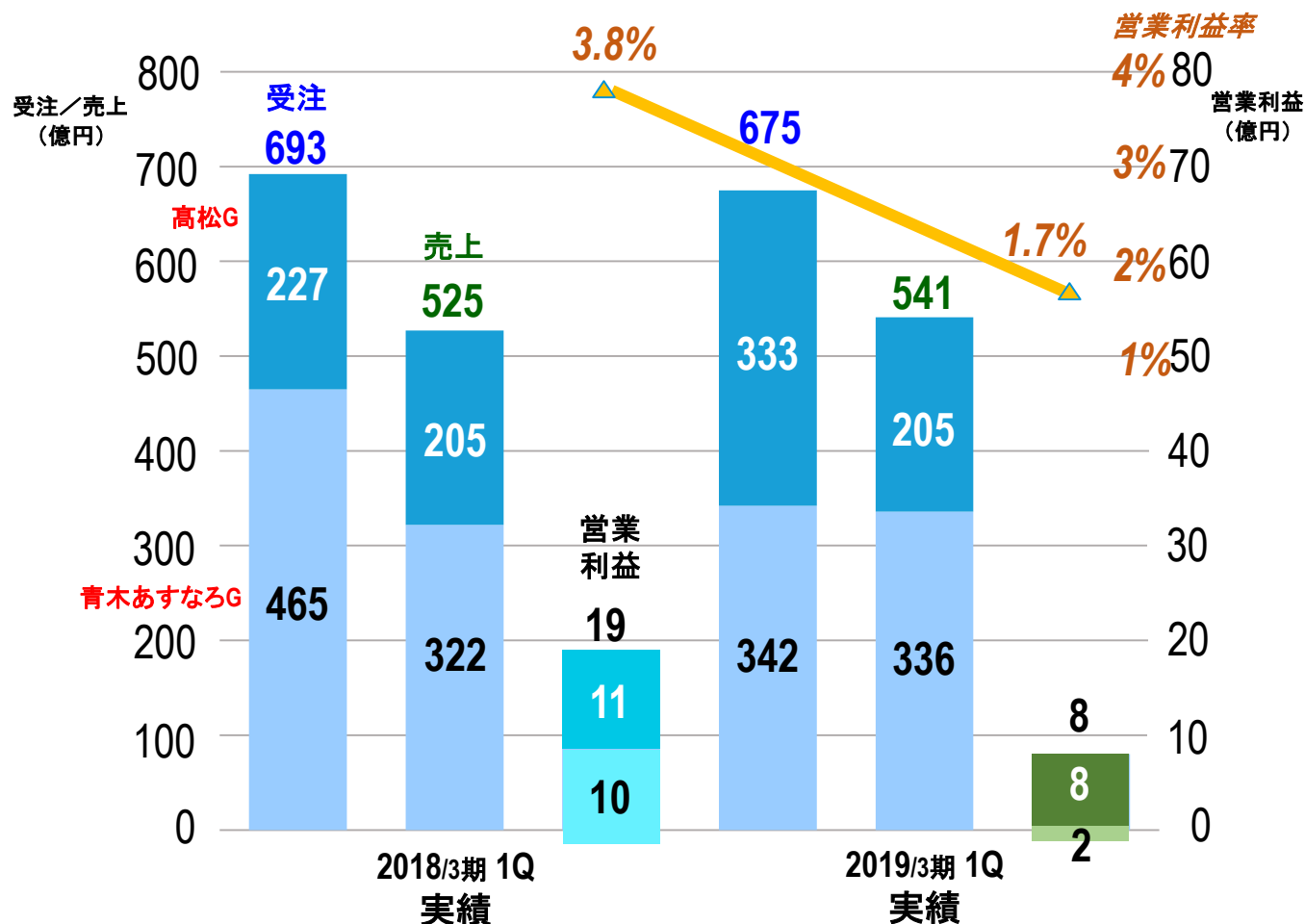
- 受注高は2.5%減の675億円。建築は高松G好調で大幅増なるも土木は大幅減。
- 売上高は3.1%増の541億円。高松Gは前年並、青木あすなるGは土木増、建築減。全体で土木 20.3%増、建築 13.5%減。
- 営業利益は55.0%減の8億円。青木あすなるGの減が△8億円（建築△6億円、土木+0億円、その他△2億円）。

高松コンストラクショングループ

高松G		青木あすなるG		受注高	売上高	営業利益
高松建設 高松テクノサービス(大阪) 高松テクノサービス(東京) 住之江工芸 JPホーム 金剛組 中村社寺 ミフコーポレーション		島田組 新潟みらい建設 あすなる道路 東興ジオテック 青木マリン 建設工業 青木あすなる建設 エムエス		18/6 (17/6)	18/6 (17/6)	18/6 (17/6)
265 148 7 USC A 高松エステート(大阪) 高松エステート(東京)		62 49 2 42 83 0.2 204 186 0.5		216 (372) △41.9%	267 (222) +20.3%	7 (7) +2.6%
				419 (288) +45.3%	234 (271) △13.5%	8 (17) △51.1%
				40 (32) +23.3%	40 (32) +23.3%	1 (1) △1.7%
		※各社受注高(億円) ※各社売上高(億円) ※各社営業利益(億円)				
受注高 18/6 (17/6)	333 (227) +46.4%	342 (465) △26.4%	675 (693) △2.5%			
売上高 18/6 (17/6)	205 (205) △0.1%	336 (322) +4.5%	541 (525) +3.1%			
営業利益 18/6 (17/6)	8 (11) △19.6%	2 (10) △78.6%	8 (19) △55.0%			

グループ別 受注高・売上高・営業利益の推移（連結）

1. 受注高は2.5%減の675億円。高松G好調持続、大幅増。青木あすなるGは土木の受注大幅減。
2. 売上高は3.1%増の541億円。高松Gは前年並、青木あすなるGは建築減を土木増が上回り336億円へ。
3. 営業利益は55.0%減の8億円。高松G△2.1億円減、青木あすなるG△8.4億円。

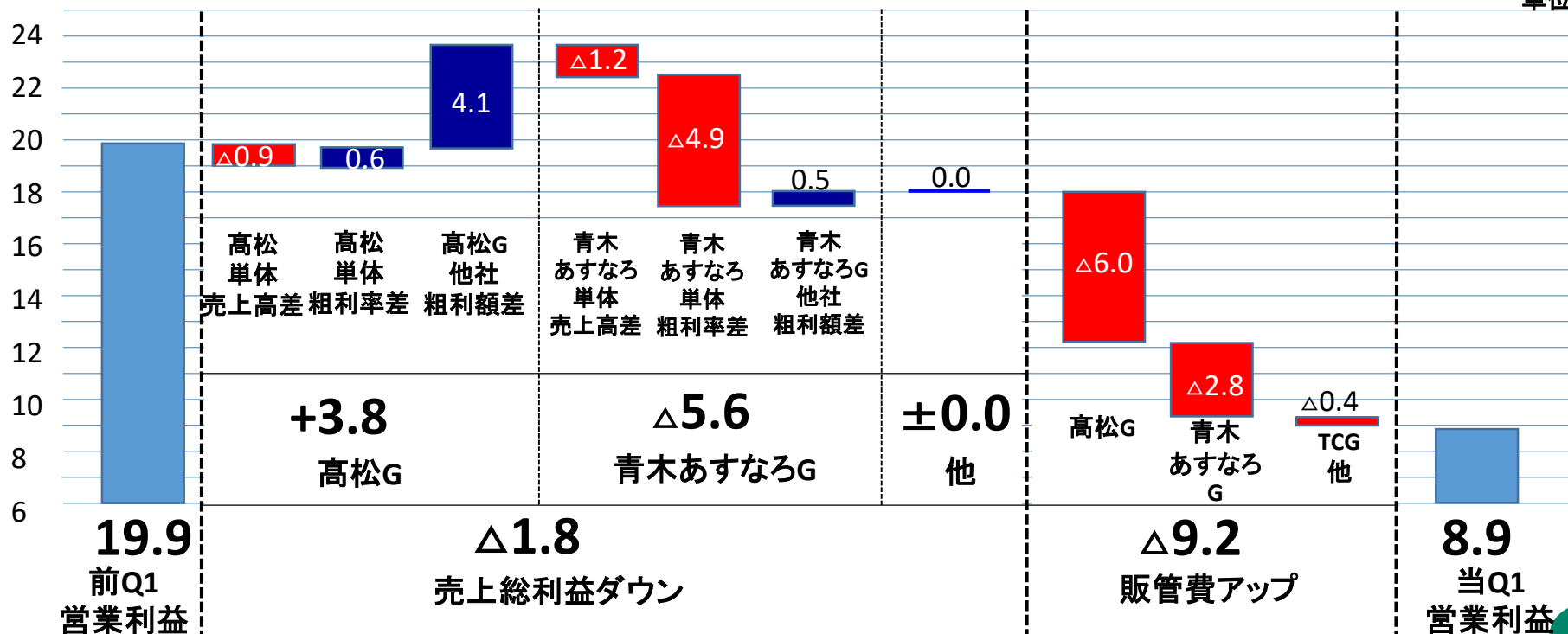


単位: 億円。 管理部門費等があるため、営業利益のセグメント・グループごとの合算値は全社合計と一致しない。

営業利益(連結)の対前年差異説明

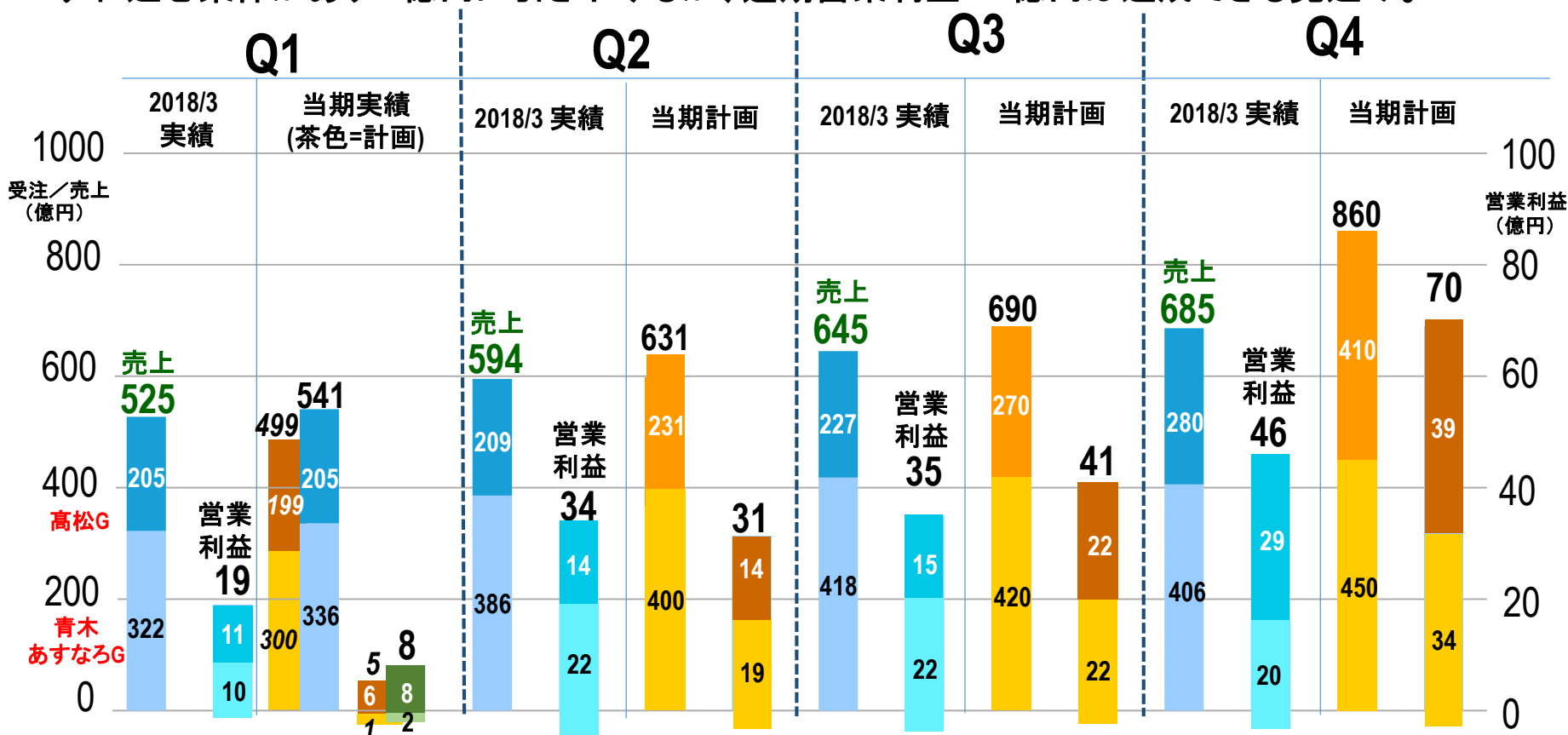
- 営業利益が前期の19.9億円から8.9億円に減少した一つ目の理由は、売上高が3.1%伸びたにもかかわらず、売上総利益が2.7%(△1.8億円)減少したため。
- 高松Gの売上総利益はアップしている。一方、高松建設単体は売上総利益率は上がったが、売上高微減で微減。
- 青木あすなろGの売上総利益は5.6億円減。
 - 青木あすなろ単体が6.1億円減、建築の売上総利益率が昨年度の高収益案件の反動減でダウン大。
- 販管費は全体で9.2億円の増。
 - 高松Gの6.0億円の増のうち、ミブの加入による増が3.2億円。次いで高松建設単体が2.5億円の増。高松建設単体の増は人件費の増が2.4億円で大部分を占める。
 - 青木あすなろGの2.8億円の増のうち、青木あすなろ単体が2.1億円で大部分を占める。うち1.9億円が人件費。

単位:億円



グループ別 四半期別 売上高・営業利益の見通し（連結）

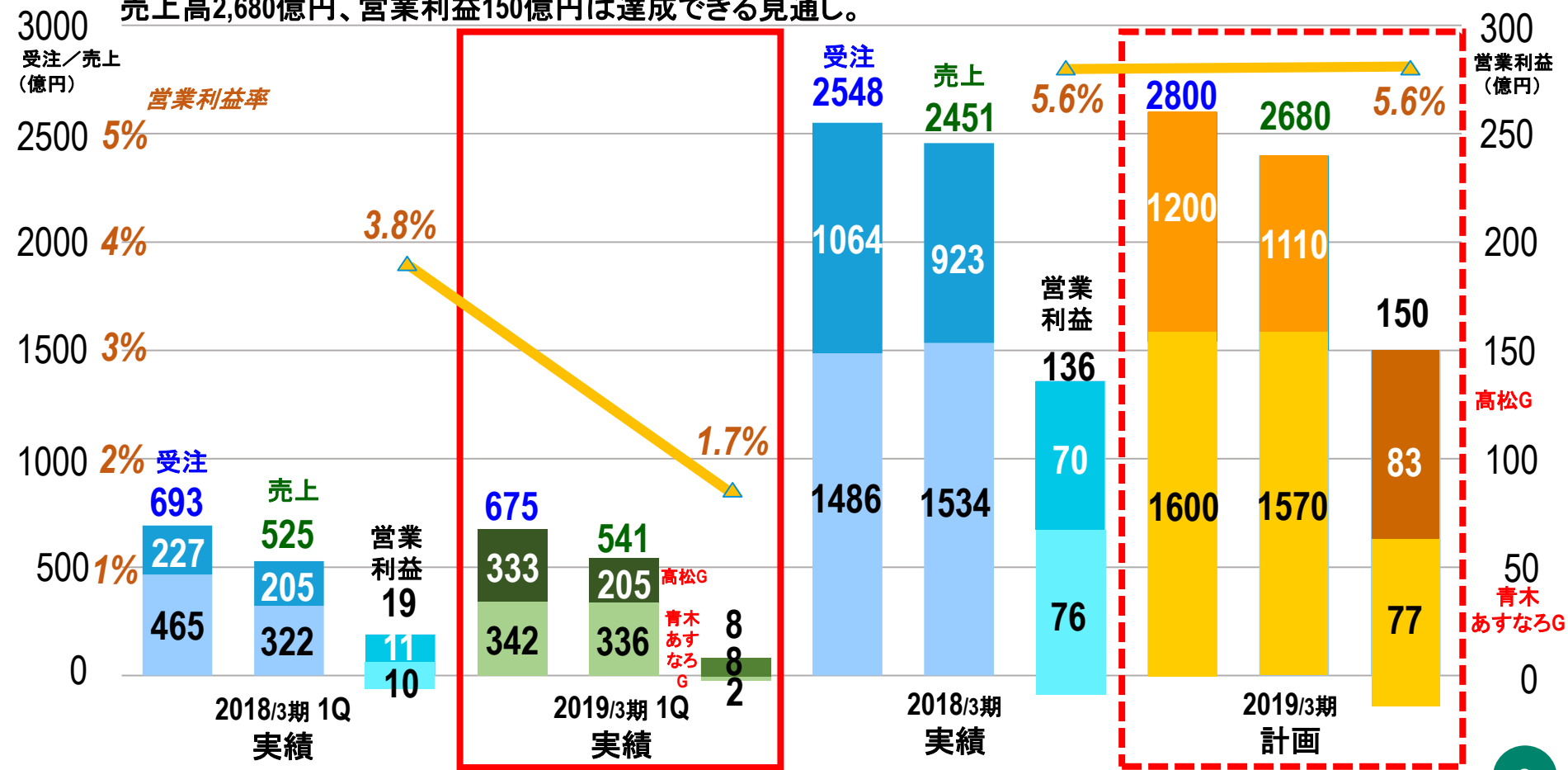
1. 第1四半期は対前年比では利益減なるも、対計画以上の利益を達成している。
2. 第2四半期以降、売上高の伸びに加え、売上総利益率の好転を見込む。
販管費は第1四半期並みの金額で通期推移する見込み。
3. 上半期営業利益45億円は、高松G案件の精査の結果、完工時期が当初比で第3四半期以降にずれ込む案件があり40億円に引き下げるが、通期営業利益150億円は達成できる見込み。



単位: 億円。 TCG単体・連結調整等があり、グループごとの合算値は全社合計と一致しない。

グループ別 受注高・売上高・営業利益の推移と見通し（連結）

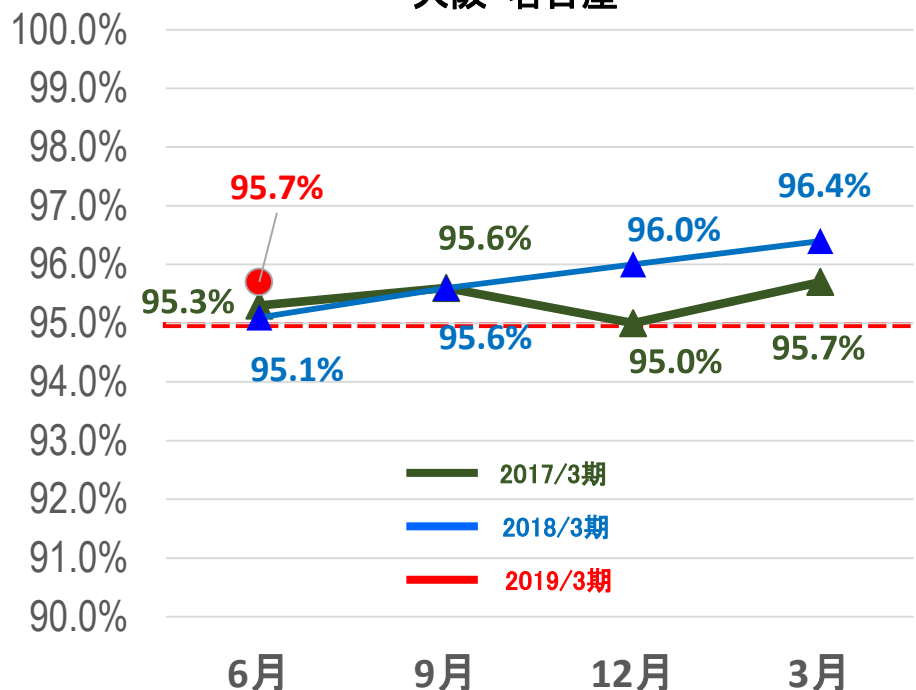
1. 売上高は高松Gは通年では前年比20%増を想定しているのに対し、第1四半期は前年並みだった。
 - 前第1四半期は繰越完工案件多かった。本第1四半期の前年並みは計画上織込み済。
 - 第2四半期以降に売上高増を想定。
2. 第一四半期の青木あすなろGの売上高も、ほぼ前年並みだが、通年も同様に前年並み。
 - 一方、青木あすなろG売上総利益率は第2四半期以降、回復を想定。
3. 高採算の高松Gの売上増（グループ内シェアアップ）により利益面をカバーし、対外発表した通年受注2,800億円、売上高2,680億円、営業利益150億円は達成できる見通し。



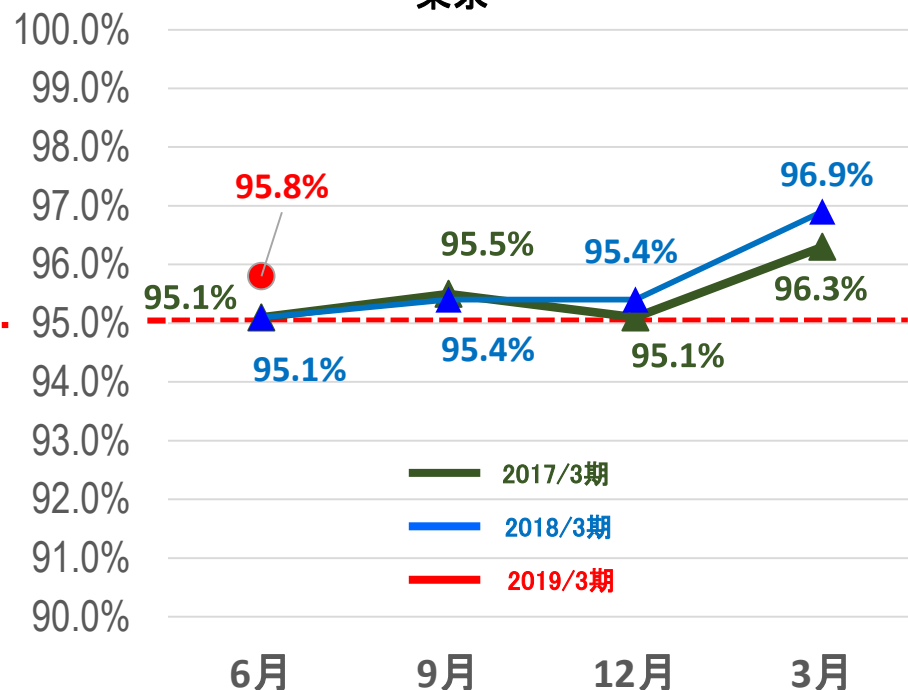
高松エステートにおける高松建設施工物件の入居率

1. 東京・大阪ともに、入居率は18年6月も95%以上を維持している。
2. 東名阪・都心部の賃貸マーケットは底堅い動きが継続していると考える。
3. 東名阪・都心部でも、高齢化により、将来的には空き家が増加するとの見方もあるが、高松建設が注力している主要駅周辺に関しては、今後も需要は落ちないと予測する。

大阪・名古屋



東京



定義 「大阪・名古屋」=大阪府、京都府、兵庫県、名古屋市
「東京」=東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県
「入居率」=各四半期末時点の高松建設施工物件の入居戸数
÷各四半期末時点の高松エステート(大阪、東京)が
管理している高松建設施工物件の総戸数